令和３年度　古井小学校だより＜第11号＞
きかんしゃ
From-0 歳プラン2推進校

令和4年2月1日（火）

【学校の教育目標】
すすんで　とりくむ　古井の子

“中止”の裏にも

校長 渡辺英哉

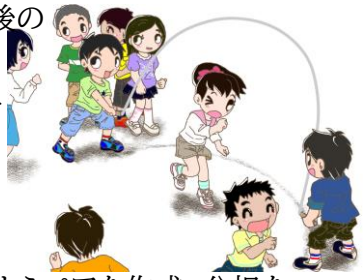
～令和３年度学校評価のためのアンケートから その２～

■　大縄跳びの取組を中止しました。

感染症対策を行いながら開始しましたが、急速な感染拡大に伴い、苦渋の決断をせざるを得ませんでした。しかし、その裏に、どうしてもお知らせしたい古井の子の事実があります。

【事実①】
６年生が下級生と直接関わって取り組めるような工夫を自ら考え、準備しました。

「C58活動（縦割り遊び）」等、下級生と接しながら信頼関係を築いていける活動が従来通りにはできなかった本年度。新たにタブレット端末を用いてリモートで交流する方法等を考え出してきた6年生ですが、最後のこの活動だけは、可愛い下級生の子たちと一緒に活動することを切に願っていました。



そこで、運動会で同じ団を組んだ学級に、縄の回し手として入り込めるようペアを作成、分担を考えるとともに、アドバイスもできるように、自ら練習を重ねてきました。

【事実②】
初日の取組を終えて、すぐさま、さらなる感染症対策を行いました。

実際に活動してみると、気を付けていても、手洗い場や玄関等で密状態が発生してしまうことがわかりました。

教職員も対策を練りましたが、6年生も改善案を考え、次の活動時には、代表の児童が放送で各学年に教室から運動場に向かうタイミングや終了後の手洗い場所等を指示していました。

「C58（児童会）委員で話し合って考えてみたんです！」

誇らしげな表情が忘れられません。

【事実③】
下級生も取組の工夫を6年生に提案しました。

最初に動いたのは4年生でした。実際に活動する場面をイメージしてみた彼らは、きっと、仲間との距離が近くなってしまうと感じました。そこで、昨年度までの取組方法を参考にしつつ、地面に線を引いて前の子との間隔を取る方法等を提案してくれたのです。

こうした下級生の動きを受けて6年生も

「どうやったらできるか、僕たち私たちもいろいろ工夫しますが、全校の皆さんも良いと思ったことを教えてください。」

と、呼びかけたところでした。

■　取組の中止は残念でなりませんが･･･

こういった状況においても、先生に任せきるのではなく、6年生に頼りきるのではなく、自分たちで考えて何とかしようとした事実には、古井の子たちの今年の成長が表れていると思います。

前号でお示しした「学校評価アンケート」③においても、半数以上（「どちらかと言えばそう思う」も合わせると85％）の子が「自分で古井小を変えられると思う」と答えたこともうなずけます。

＜再度、紹介します！＞
③「自分で自分の学級や古井小をより良いもの（ところ）やより楽しいもの（ところ）に変えられると思う。」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

これ以上、感染が広がらないことを祈願して、２月１日の全校朝会（リモート）では、子どもたちに「アマビエ」のお話ができたらと考えております。